

本展では、近年手がけた代表的なプロジェクトを紹介。大切に作られたもの、守られてきた文化の尊さと意義。そしていま私たちが生きる世界を織り成す一つひとつに宿る生命とその関わりに目を向けていく。(●印のついた作品は販売しております。詳細はお近くのスタッフまでお問い合わせください)

## TOTEM<sup>1</sup>●

奄美大島の豊かな大地の恩恵を受けた伝統染色。伝統毛織物の復興を目指すインドの工房。敢えて不均一に仕上げた意匠糸を生産する愛知県一宮市の製糸工場。岡山の真鍮作家。現地に足を運び、その地の純粹なものづくりと向き合ってきたWONDER FULL LIFEは、創作の裏に潜む感覚や精神性を表すものとして、巨大な「トーテム」を制作。異なる時を過ごしてきたものたちがコットンロープで綴られ、大きな生命体のように立ち上がる。

国産綿ロープ、毛糸 [シャムジー (インド)、佐藤繊維 (山形)]  
意匠糸・毛糸 [クラフト F (愛知)]、再生ビニールテープ、  
天然染色 [金井志人]、真鍮 [菊地流架] | 2023年

## COUNTERPOINT<sup>2</sup>●

WONDER FULL LIFEの大脇千加子が、福岡を拠点とするLIGHT YEARSの細矢直子とともに出かけた旅先での気づきをさまざまな形にしていくプロジェクト〈COUNTERPOINT〉。その土地や人との出会いから生まれるもののひとつとして、兵庫の陶芸家、十場天伸と十場あすかが手がけた野焼きの土器や、岡山の金工作家、菊地流架が叩き鍛え上げる真鍮に、各々が自由な絵付けや装飾を施している。本展に向け、十場天伸が真鍮箔を金継ぎで重ねることで、それぞれの境界がさらに溶け合うかたちとなった。

土器 [十場天伸、十場あすか]、真鍮 [菊地流架]、  
絵付け・彫刻 [大脇千加子、細矢直子] | 2022年

## BRICOLAGE<sup>3</sup>●

アマゾン流域に住む人々の生活文化を研究し続けた文化人類学研究者の山口吉彦。30種族以上の先住民族と生活を共にしながら収集したコレクションは2万点にも及ぶ。自然の神秘、熱帯の色彩、人々の信仰を内包した所蔵品の一部を譲り受けたWONDER FULL LIFE。貴重な暮らしの痕跡を補修しつつ、染色、刺繍、装飾を加え、新たな存在へと昇華していった。今を生きるつくり手にとって必要なことを深く享受した取り組み。

藍泥染めしたヤオ族の衣装、リス族ヘッドピース、  
ミャオ族の首飾りほか [素材提供=山口吉彦]、  
陶器 [十場あすか] | 2022-2023年

## 祝祭 —Relighten—<sup>4</sup>●

ミナペルホネンが、2014年から2020年のコレクションのためにつくられた毛糸。生糸から厳選され、丁寧に撚り、染められた素材の物語を紡ぎ、大切にアーカイブされていたそれらを束ねて新たな形に変える試み。WONDER FULL LIFEが制作したのは、盛儀の行列や引き馬などに用いる馬飾り。道産子馬、さくらが身に纏うための特別な馬具を編み上げ、写真家の在本彌生が勇壮に走り抜けるさくらを撮り下ろした。過去の記憶の連なりから生まれる現在と未来を描き出す。

馬飾り [素材提供=ミナペルホネン]、  
写真 [在本彌生] | 2020年

## AMU<sup>5</sup>

ファッションを中心に活躍する写真家の松原博子が、プライベートワークとして撮りたいと思う被写体に対し、WONDER FULL LIFEが纏わせたいと思うオブジェを制作。古来より笠の素材に用いられてきたクバ(ピロウ)の葉を用い、沖縄・伊平屋島で現代民具をつくる是枝麻紗美が編み、奄美大島で伝統染色を営む金井志人がそのかたちに寄り添い、茜染めで染め上げた。永久的な存在ではない、人の身体と植物が重なり混ざり合う一瞬を捉えた作品。

写真 [松原博子]、クバ [是枝麻紗美]、  
天然染色 [金井志人] | 2019年

## うみまとう<sup>6</sup>

2019年、東京から奄美大島へと活動の拠点を移したアーティスト、ミロコマチコ。自分を取り巻く環境をより意識するようになった彼女は、奄美の伝統技法で染めた布をキャンバスに創作を開始。さらに2021年にはじまった《いきものはわたしのかがみ》巡回展のなかで行われたライブペインティングでWONDER FULL LIFEと協働。制作の時間を刻む、絵の具が飛び散った衣装や布を解体したうえで染め直し、その上に再び絵を描くことで、新たな生命を吹き込んでいった。

樹脂加工したコットン布、絵の具 (アクリル、アクリルガッシュ) [ミロコマチコ] | 2021-2022年



夜空に輝く無数の星。何万光年も離れた、遠いどこかで放たれた光の粒を眺めながら、私たちは動物やモノのかたちになぞらえては星座とし、ときに神々たちの壮大な物語を語り継ぎ、未来に思いを馳せながら運命を読み解く指標にしてきた。個別の存在に意識を巡らせ、一つひとつを紐付け、想像と創造を繰り返すことは、人にとってごく自然な行為であり、豊かに生きていくために必要不可欠なことのようにも思われる。

WONDER FULL LIFEは、異なる分野で独自に活動するつくり手や表現者たちが出会い、繰り返し対話を重ねながら、これまでに見えなかったビジョンに気づき、未知なる創作領域を拡張してきた。

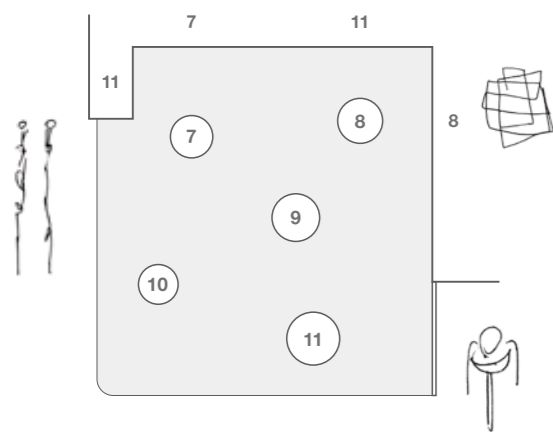
そのプロセスで生じる小さな気づきや疑問。手と手を重ね、意識を交えながら、さらに歩みを進めていくと、また新たに向かうべき道が現れる。分岐、交差、合流、並走を繰り返しながら生まれる、多様な視点と有機的な振動は、世にあるすべてのもの——つくり手だけでなく、伝える人、受け取る人すべて——に呼応し、共鳴していく。

私たちは皆、まだ道の途中に立っている。点と点を結び、補い合いながら、ここで綴られる出来事が、また新たな事の巡りへとつながる未来を思い描いている。

WONDER FULL LIFE

## MATERIAL PIECE

小さくとも確かな輝きを放つ端材たち。会場内に点在するWONDER FULL LIFEのアートピースへと昇華した素材を通して見える景色とは。



## NATURE DYE<sup>7</sup>

奄美大島と沖縄。今もなお太古の自然と文化が脈打つ2つの島で天然染色を行う金井志人と橋田優子が色による対話を試みようとしたユニット、kittanai。2021年にeatrip soilプロデュースのもと行なったインスタレーション《土から生まれた》の制作過程で思いがけず変色してしまった布を、居合わせた人々の手で撚り合わせ、大脇千加子が渦巻き状のオブジェ「を/ Between visible and invisible」へと自然発生的に展開した。

オーガニックコットン、車輪梅・茜・泥による天然染め  
[金井志人、橋田優子] | 2021年

## KANTHA<sup>8</sup>●

インドの女性たちが家族の幸福と繁栄を祈りながら、古布に繊細な刺し子を施し、完成するカンタ。WONDER FULL LIFEのローブやコートをつくる過程で発生した端材を集め、そのままの形を残しつつなぎ合わせた。複雑なパターンから思いがけない模様が浮かび上がるマルチクロスやボタニカルバックを制作を通して、言葉をもたない布の声を聴き、手仕事の向こう側にいる人々との時間を重ねている。

マルチクロス(カンタブ) | 2021-2023年  
ボタニカルバック(カンタブ) | 2023年

## TALISMAN<sup>9</sup>

自ら狩猟した鹿の角を用いて、オブジェやカトラリーを作る合田大智が集めた鳥の羽。陶芸家の掛谷康樹、山下寛兼が手がけた陶器の球など、制作のプロセスから生まれたパーツ。さらには、アフリカやアフガニスタンの石、カレン族やラバリ族といった少数民族が手がけた銀細工など、時間や国境を越えて手元に巡ってきたものたちを繋ぎ合わせ、WONDER FULL LIFEが「タリスマン」という祈りのかたちに集約していく。

鳥の羽、実(カスカベル・ラフィア・鬼菱・菱)、珊瑚の化石、鏝(黒曜石・水晶)、真鍮、銀細工[ラバリ族(インド)・カレン族(ミャンマー)]

## FLOWER WASTE<sup>10</sup>

店頭に並ぶ美しい花々の影で、切り落とされてしまふものや盛りを過ぎたものがある。捨てざるを得なかった植物から抽出した染料を用いたボタニカルダイや、花を直接布に巻き込み蒸しあげることでその色柄を写し取るバンドルダイなど、THE LITTLE SHOP OF FLOWERSを主宰する杏岐ゆかりとWONDER FULL LIFEが試行錯誤を重ね、集められた花々を多様なかたちに結んでいる。

ボタニカルダイの布 | 2020年  
バンドルダイの布、ドライフラワー、陶器[十場あすか] | 2023年

## EARTH WORK<sup>11</sup>●

現在の活動の方向性を定めるきっかけとなった2019年開催の展覧会《IMPROVISING EARTH WORK -小さな旅の巡り-》。この展覧会では、土地の魅力や季節の移り変わりを肌で感じながら、創作と向き合う作家とそれぞれが持つ素材や技法を持ち寄り、ウォールハンギングを制作した。本展では自然から受け取った色を重ねる手前にある、様々な土地で出会い手渡されてきた糸や紐、今は生産されていない非効率な技法でつくられてきた意匠糸なども展示している。

藍泥染 [金井志人]、真鍮 [菊地流架]、陶器 [城戸雄介]、漆 [宮城壮一郎]、写真 [中川正子] | 2019年

## とあるひ 2023 初夏

異なる分野で活動するつくり手や表現者たちとの制作の場であるWONDER FULL LIFEの鎌倉アトリエを訪れた音楽家の平井真美子。アトリエの母屋で子供たちが弾くグランドピアノ、自ら運びこんだ古い足踏みオルガンのほか、周囲の森に住む鳥の声や木々の音、WONDER FULL LIFEの参加メンバーの話し声など。共に過ごす時間のなかで、創作の営みから生まれた音を紡ぎ合わせるように、会場音楽を手がけた。

音楽 [平井真美子]、録音・ミックス [Flysound Co.] | 2時間33分 | 2023年



## WONDER FULL LIFE / 大脇千加子

ファッションデザイナーとしての活動を経て、2016年に〈WONDER FULL LIFE〉を設立した大脇千加子。異分野の作家、学者、表現者と交流を重ねるなか、ふと気に留まった素材のかけらや作りかけのオブジェ、言葉の切れ端を次々に拾い集め、新しい創作を模索している。

### People

在本彌生	合田大智	細矢直子
杏岐ゆかり	是枝麻紗美	松原博子
OLAibi	十場天伸	ミロコマチコ
金井志人	十場あすか	
菊地流架	中川正子	

### Special Thanks

会津亜紀	尾見紀佐子	原田陽子
会津尚二郎	橋田優子	松澤れい
東岳志	鷹箸廉	三浦彰子
岩本京子	田中景子	ミナベルホネン
大脇あけみ	野村友里	森山直太郎

| 主催 | 株式会社良品計画

| 企画 | ATELIER MUJI GINZA

| グラフィックデザイン | 飯田将平+下岡由季+佐々木晴 (ido)

| 空間構成 | 板坂留五 (RUI Architects)・飯田将平 (ido)

| 会場音楽 | 平井真美子 (ピアニスト/作曲家)

| 編集・文 | 猪飼尚司

| 制作協力 | 川村美帆 (daily press)

**ATELIER MUJI** | GINZA

# 「綴」つづる展

**TUZURU:**  
**Weaving the path of**  
**WONDER FULL LIFE**

無印良品 銀座6F  
**ATELIER MUJI GINZA Gallery 1・2**  
**2023.6.30 FRI—8.27 SUN 11:00—21:00**  
<https://www.muji.com/jp/ateliermuji/>